

(様式 1)

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立業平小学校
校長名	伊藤 康次

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
●概要 ○全国平均値を上回る学年、教科が多い。 ○標準スコアから高水準の教科 ・ 3 年国語 (53.0) ・ 4 年国語 (55.1) ・ 4 年算数 (54.0) ・ 4 年理科 (54.1) ・ 5 年国語 (53.3) ・ 5 年社会 (53.6) ○3 年生、4 年生、5 年生は全教科で全国平均値を上回る結果となった。 ※英語を専門としている教員が多く ALT との T.T の授業の質も高いことが結果として現れた。 ※4 年生は全般的に学力が高い。 (4 年社会 : 52.6) ●同一集団の成長 (教科別) [国語] ・ 3 年生、5 年生、6 年生は高水準で横ばいである。 ・ 4 年生も高水準であり、今年度は 2 ポイント上昇した。(53.0→55.1) [社会] ・ 5 年生は 2 ポイント上昇した。 (51.6→53.6) [算数] ・ 4 年生は 3 ポイント以上上昇した。 (51.9→54.0) [理科] ・ 5 年生は高水準で若干上昇した。 (51.5→52.7)	●概要 ○2 年生、6 年生で全国平均値を下回る教科があった。 ○標準スコアから低水準 (全国平均値を下回る) 教科 ・ 2 年算数 (49.3) ・ 6 年算数 (49.7) ・ 6 年社会 (48.5) ・ 6 年理科 (49.8) ○2 年生 1 教科、6 年生 3 教科で全国平均値を下回る結果となった。 ●同一集団の成長 (学年別) [6 年] ・ 社会、算数、理科において 1 ポイントから 3 ポイント以上の低下が見られた。 ※6 年生の 1 学級で担任が固定されずに 1 年間で過ごしたため、学年での連携が取れなかったことも要因の 1 つと考えられる。

●領域別傾向 [3 年] ・国語では「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」において全国平均点より 8 点以上高い。 ・算数では「データの活用」において全国平均点より 5 点以上高い。 [4 年] ・ 4 教科とも高い水準でどの領域も全国平均点より高い。 [5 年] ・社会、理科では全ての領域で全国平均点を 4 点以上高い。 ・国語、算数でも多くの領域において高水準で全国平均点より高い。 [6 年] ・国語「我が国の言語文化に関する事項」において全国平均点より 1 0 点以上高い。 ・英語「聞くこと」において国平均点より 5 点以上高い。	●領域別傾向 [2 年] ・国語では「書くこと」において全国平均点より 6 点以上低い。 [5 年] ・国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」算数「図形」において他の領域よりも全国平均点よりは高いが他の領域と比べると差が見られない。 [6 年] ・社会「産業と情報との関わり」「国土の自然環境と国民の生活」において全国平均点より 5 点以上低い。
---	--

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
[3 年] ・[話し合いは楽しい]において肯定率が 9 8 % ととても高い。 ・「クラスが楽しい」において肯定率 9 5 % を越える。 [4 年] ・「決まりを守る」と「クラスが楽しい」において肯定率が 9 5 % を越える。	[2 年] ・[考えを伝える]において肯定率が 5 0 . 6 % と全学年と比べても一番低い。

[5年] ・「考えを伝える」において肯定率95%を超える。 [6年] ・「クラスが楽しい」において肯定率94%と高い。	[6年] ・「考えを伝える」において肯定率59%と低い。 ○全学年で地域との関連についての項目で肯定率が低く、児童の地域に対する思いを高めていくことが課題である。
---	---

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・ 自分の意見をもつための取組を校内研究を通して続けてきた。この取組で、授業に真摯に向かう態度が身に付いてきたと感じられる。また、いろんな教育活動で成功体験を喜ぶ姿勢があるので、その点を上手に指導に生かしていきたい。	・ 家庭が安らぎの場になっていない子供もいる。学校便りや保護者会を通じ、家庭での指導のあり方を再確認したい。 ・ 本人の抱えている特性から、学習に対して意欲的に取り組めない児童が見られる。個に対する指導を検討していく。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 各教科の関心・意欲・態度と学習環境の向上

- ・ 学習内容の定着を図るために、復習する習慣を定着させる。授業における児童のつまづきを捉え、具体的な内容を提示するようにする。次時に向けて必要と思われる既習事項の定着をあらかじめ確認（レディネス・チェック）し、過去に遡って復習するよう促すことを取り入れる。
- ・ 机上の学習だけではなく、実際に体験を通したり、専門的な知識のある講師の話を聞いたりすることで学習に関する好奇心を向上させる。また、体験がただの体験にならないように、必然性を児童に与える事前学習をすることや、体験が自分自身の知識や考え方につながるような事後学習を行う。
- ・ スモールステップで目標を設定する。児童が達成感を味わえる肯定的な評価を続け、主体的に学習に取り組む意識を高めていく。
- ・ 他者受容感・自己評価・自己受容感を高めるために児童の小さな変化に気付き、声を掛ける。児童の気持ちに寄り添うと共に、つまづきに応じた指導を行う。

(2) 付けたい資質・能力を意識した授業を行う。

【キーワード】

① 汎用的スキル

問題解決力、批判的思考力、協働する力、伝える力、先を見通す力、感性・表現・創造の

力、メタ認知力

② 知識

主体的学び、対話的学び、深い学び

③ 態度／価値

愛する心、他者に対する受容、共感・敬意、協力し合う心、よりよい社会への意識、好奇心・探究心、正しくあろうとする心、困難を乗り越える力、向上心

【重点１】

子供の実態や教員・家庭・地域の期待などを踏まえて、学校で身に付けさせたい能力をより具体的なレベルで設定する。⇒今年度の校内研究におけるキーワードは、「対話」

○必然性・必要性のある「対話」、○自然発生的な「対話」

【重点２】

各教科・領域さらには各単元の学習状況と組み合わせ、新たな行動目標を作成する。その達成に向けて経験を積み重ねていくこと、より多くの場を経験することで能力を育てる。

（３）個別最適な学びを念頭に、指導を行う。

「個別最適な学び」＝「指導の個別化」「学習の個性化」

⇒教員の視点から……「個に応じた指導」

指導の個別化＝一定の目標を児童が達成することを目指し、個々の児童に応じて異なる方法等で学習を進めること。

学習の個性化＝個々の児童の興味・関心に応じて学習を進めること。

課題や学習活動に取り組む機会を提供すること。

【重点１】

- ・教員が支援の必要な児童に、より適切な指導を行う。
- ・児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。児童一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、児童自身の学習が最適となるよう調整させる場を設ける。

【重点２】

- ・タブレット端末を有効的に活用する。「ミライシード」「ロイロノート」等で児童の能力に応じた課題を提供する。
- ・ふりかえりシートを活用し、児童の能力に応じた内容の課題を提供する。また、東京ベーシックドリルを活用し定期的に学力定着度を図る。

3 「令和８年度 墨田区学習状況調査」における目標

（１）目標

- ・全ての学年、項目で全国平均を上回る。（重点教科 令和８年度 ３年生、４年生の算数）
- ・比較的能力のある４年生、５年生（令和８年度の５年生、６年生）で墨田区での上位を獲得する。